

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E142M006	消費者教育 (Consumer Education)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部			氏名 財津 庸子 E-mail yzaitso@oita-u.ac.jp 内線 7601											
授業の概要	消費者教育の定義・理念・基本概念について理解し、消費者教育推進法に基づく学校教育での推進のあり方、家庭科における具体的な内容を構想し表現することができる。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学校教育における消費者教育の位置づけと意義について説明できる。																
目標2	小中高家庭科の消費者教育の内容を具体的に構想し説明できる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス 消費者教育の変遷																
2	消費者教育の定義																
3	消費者教育の理念・基本概念																
4	学校教育における消費者教育																
5	小学校家庭科における消費者教育																
6	中学校家庭科における消費者教育																
7	高等学校家庭科における消費者教育																
8	学校教育における具体的な学習内容1. 契約・悪質商法																
9	学校教育における具体的な学習内容2. 支払方法(各種カード等)																
10	学校教育における具体的な学習内容3. 情報収集・ネット関連トラブル等																
11	学校教育における具体的な学習内容4. エシカル消費(エコ・生物多様性他)																
12	学校教育における具体的な学習内容5. エシカル消費(被災地支援・フェアトレード他)																
13	学校教育における具体的な学習内容6. 消費者市民社会の構築																
14	教材研究した内容に基づいた教材開発1																
15	教材研究した内容に基づいた教材開発2およびまとめ																
ラ イ ク ニ テ ン イ グ 	A:知識の定着・確認	調査、発表および意見交換、実験・実習					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	講義該当箇所の予習や事前の課題(15h)															
	事後 学修	講義該当箇所の復習(15h) 課題に関する調べ学習や製作等(10h)															
教科書	とくに指定なし。随時プリント資料等配布																
参考書	小中高の家庭科教科書 谷村賢治・小川直樹編「新版 生涯消費者教育論―地域消費者力を育むために」晃洋書房(2007) 日本消費者教育学会編「新消費者教育Q&A」中部日本教育文化会(2007)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート	30%															
	テーマ別の課題や成果物	50%															
	発表や意見交換	20%															
注意事項	エコクッキングやフィールドワークなどをともなう授業を行う際に自己負担が生じることがある。また、時間外に学外で行う活動や課題が課されることがある。																
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	中学校・高等学校の家庭科教員
実務経験を いかした教 育内容	中学校・高等学校の家庭科教員としてこの分野の授業を経験したことを活かす。